

Q12： 先生方の研修をどのように進めていけばよいですか。

A12： 外国語活動は、HRT(学級担任)が主体となって進めることが基本となります。自分の英語に対して不安を抱いている先生方も自信をもって取り組めるようにするために、校内の中核教員が主となって職員の研修を行いながら、「英語の活動は楽しい」といった雰囲気をつくっていきましょう。

校内の研修には次のようなものが考えられます。このような研修とともに日常的に授業の進め方などをお互いに交流することが指導力を高めることにつながります。

1 定期的に行う研修

小学校英語中核教員（英語担当者）が教師役、他の職員は児童役となって、実際に児童が行う活動を行います。活動を通して教師が活動の中でどのような英語を使うと円滑に進められるかを学んだり、活動の内容について考え、よりよい活動へと改善を図ったりすることができます。職員の打ち合わせや職員会の時など、全員が揃うことができるときに、歌やゲームの紹介等、短時間でできる内容を考え、継続的に実践すると効果的です。

この研修を行うことで活動のバリエーションを増やすこともできます。ALTを交えてクラスルーム・イングリッシュを紹介してもらうのもよいでしょう。



2 長期休業中に行う研修

長期休業中に外部講師を招き、一日あるいは数日にわたって集中的に行う方法があります。いずれにしてもこのような集中的な研修により、活動や指導方法の工夫についてより深く学ぶことができます。

3 ALT との打ち合わせ

ALT（外国語指導助手）と行う打ち合わせも、短時間であっても貴重な研修の場です。ALTに任せっぱなしにするのではなく、ALTと共に活動を進める気持ちで、自分たちが作成した指導計画をベースにしながら、行いたい活動を伝え合い、理解し合って活動に望むとよいでしょう。

4 全校研究会・学年研究会等での研修

英語活動の授業をお互いに見合っただけで研修をすることは大変貴重で重要なことです。一年に少なくとも1回は授業を参観しながら、「このようにやっていきましょう」という1つの見本となるものを共通理解することが必要です。また、これらの機会に英語活動の具体的な授業を通して、その学校としての基本的な考え方や目標を確認し合っただけで、活動の質を高めることもできるでしょう。

5 先進校や拠点校の視察や他校の授業参観を通じた研修

先進校や拠点校の英語活動の様子を参観することは、活動のアイデアを得たり、自校の活動を客観的に見たりする機会となり、大変効果的です。さらに参観後には必ず、視察の成果を校内で報告するようにしましょう。その際、自校の目標に照らし合わせて、どのような指導や活動を今後の実践に生かすことができるのかについてお互いに考えることにより、指導の充実を図ることができるでしょう。また、英語活動が郡市教科研などに位置付けられているような場合も、研修の成果を校内に報告することも忘れずに行ってください。



この活動はうちの学校でもやってみたく思ったよ。